

**質の高い臨床教育・研究の確保事業  
取組の概要と推進委員会からの主なコメント**

		整理番号	20
代表校名 (連携校名)	琉球大学		
事業名	「安全な処方のためのシミュレーション教育」と「患者と研究者の負担を軽減する臨床研究専門職の確保と DCT 推進」		
事業責任者	医学研究科 教授・植田 真一郎		
<b>事業の概要</b>			
<p>「安全な処方のためのシミュレーション教育」では、研修医 1 年目が安全に薬剤を処方するスキルの習得を目標とした仮想クリニカルシナリオに基づく CBT 形式の処方シミュレーション教育教材を作成し、参加型臨床実習を補完する形で実装するとともに、開発した CBT 教材の普及を図る。「患者と研究者の負担を軽減する臨床研究専門職の確保と DCT 推進」では、1) 研究者と伴走できる臨床研究専門職の育成と配置、2) 進化した DX の活用による Decentralized Clinical Trials(DCT)の推進、3) 臨床試験の社会受容性を高め、患者と研究者が臨床研究の価値を共有できる Patients Public Involvement (PPI) の研究者教育・支援の導入、の 3 つを柱とした臨床研究支援体制の構築と人材育成を行う。本取組を実施・継続することで医師の働き方改革を促進するとともに臨床教育・研究の質を高める。</p>			
<b>推進委員会からの主なコメント</b> ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
<p>○「安全な処方のためのシミュレーション教育」という着眼点は臨床実習を補完するものとして重要であるが、処方指導について課題解決に向く方策が少なく、本取組は非常に期待できる。</p> <p>○安全な処方のトレーニングという取組内容により、独自性の高い、診療参加型臨床実習の充実と他大学のモデルとなることが期待できる。安全な処方のシミュレーション教育が実現し、他の大学にも普及されることを期待する。</p> <p>○CBT 形式のシナリオ作成等、安全な処方の習得につながることを期待できる教育プログラムになっている。初期臨床研修の水準を想定しているようであるが、応用範囲は大きいと考えられる。</p> <p>○処方エラーに関する評価も実施することで、教育効果も評価できる計画となっている。</p> <p>○教材の作成に相当の労力を投じることが求められるが、1000 問の問題作成に期待したい。</p> <p>○人材育成、DCT の研究体制構築、PPI の 3 本柱での事業計画は、臨床研究を推進するために効果的と考える。</p> <p>○DCT の推進に尽力するとの意向は貴重であり、DCT の推進に向けて、広く臨床研究に使用できる汎用性が高いハイブリッド型のシステム開発されることを期待する。</p> <p>○事業実施体制は具体的に記載されており、妥当性は高いと考えられる。</p> <p>○外部及び内部評価のタイミングが明確である。</p> <p>●対象傷病の範囲等の設定について確定させる必要がある。</p> <p>●関連する臨床推論やカルテ記載についても効果的に展開されることを期待する。</p> <p>●臨床研究の推進につながる教育資材や DCT 関係の資材などの公開予定や、他の施設への普及計画が記載されることが望まれる。</p>			